

あたらしくはいった こどもの本

秋田市立図書館ホームページURL

[https://www.city.akita.lg.jp/](https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/index.html)

[kurashi/shakai-shogai/](https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/index.html)

[1008469/index.html](https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/index.html)



おしらせ

『かぞくぶっくぱっく』の中身が新しくなりました

本のお楽しみ袋『かぞくぶっくぱっく』が、6月からリニューアル！年齢別、ジャンル別にさまざまなぱっくを用意しています。ガチャを回して借りるぱっくを選ぶ、「ガチャぱっく」もあります！新たな本との出会いのきっかけに。ぜひ借りてみてください。



今月のテーマ展示

- 絵本『星・月・空』
- 読み物・ノンフィクション『室内遊び』



※1階児童コーナーで
ご覧ください。

えほん



パパさんぽ

きくちちき／作
文溪堂
(Eキ) ※1歳から

パパとくまちゃんはおさんぽに出発。気まぐれなくまちゃんは「ちょうちょまてー」「とかげさんまてー」と、あちこちよりみちがとまりません。木の上のねこさんを見つけて、「いいなあ、いきたいなあ」と言う…。パパと一緒に楽しくなるシリーズ第3作目です。



せんせい みてて！

石井聖岳／作
童心社
(Eイ) ※3歳から

「せんせいみてて！」はなちゃんがそろりそろりと一本橋をわたります。「わーできたー！がんばったねー！」と拍手をすると、草むらから「わたしもみてて！」という声。やってきたのは…？保育士になった絵本作家による、園児とのふれあいから生まれた絵本です。



こんにちは！ コビンくん

いしいつとむ／作
アリス館
(Eイ) ※3歳から

雨の日が大好きな小びんのコビンくん。しずくが当たるとポン・ポン・ピン♪ポポン・ピン♪と素敵な音がします。コビンくんが歩いていると、迷子になって泣いているチョウチョのモンちゃんに出会いました。コビンくんともんちゃんの小さな冒険が始まります。



おおきな おおきな あさごはん

リチャード・ジョーンズ／作
よしいかずみ／訳 化学同人
(Eジ) ※5歳から

ある日ことりがやってきて、ぼくの手から朝ごはんを食べました。次の日には2ひきのねずみ、さらに次の日には4ひきのリスも仲間入り。はらぺこさんたちはその後も増えていき、大勢でにぎやかな朝ごはん！動物たちが食べる音のオノマトペも楽しい1冊です。

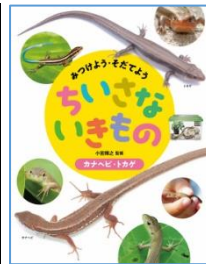
低学年向き



どろぼうジャンボリ

阿部結／作
ほるぷ出版
(91ア)

どろぼうのジャンボリがぬすむのは「てがみのたね」。それは渡せないままひっそりとすてられた手紙のこと。手紙にかかれたみんなの気持ちを、かくれがでっそり読むのがジャンボリの楽しみなのです。ある日いつものようにごみばこを探しますが、「てがみのたね」が見当たりません。いったいどうしたことでしょう？



みつげよう・そだてよう ちいさないきもの カナヘビ・トカゲ

小宮輝之／監修
金の星社
(487.9)

日常でも見かけることのあるトカゲやカナヘビですが、皆さんはその暮らしについて、どれくらい知っていますか？日なたぼっこをしたり、エサとなる虫をつかまえたりする姿をたくさんの写真つきで紹介します。また、育てたい人のために、つかまえ方やお世話の仕方もまとめています。

中学年向き



泣き虫ビンゴ！

木内南緒／作
森田るり／絵
岩崎書店
(91キ)

泣き虫のツヨシの前に、本物の「泣き虫」が現れた！今、いろいろな種類のなみだを集めていてツヨシにも手伝ってもらいたいらしい。痛いなみだ、玉ねぎなみだ、大笑いなみだ、あくびなみだ、くやしなみだ…。ふたりは、協力してなみだを集めることに。けれども、あとひとつというところで、思いがけないアクシデントが！



見るのが楽しくなる 目のひみつ

今泉忠明／監修
さいとうあずみ／絵
創元社
(49)

わたしたちは、いつも目を使っています。本を読んだり、ゲームをしたり…。他の動物には見えているのに人間には見えないものもあります。この本では、目のしくみや大切な役割、鳥や魚、昆虫などが見ている世界について、イラストや写真で説明しています。目のひみつを探りながら、ふしぎな世界をのぞいてみましょう。

高学年以上



白い虹を投げる

吉野万理子／作
黒須高嶺／絵
Gakken
(91ヨ)

かつて同じ野球チームに所属していたヤヤと葉央。ヤヤは転校先の新しいチームになじめず、葉央のチームは人数不足で試合ができないでいました。メールでお互いを勇気づけながら練習に励む日々。そんな中、それぞれのチームメイトとともに「キャッチボールクラシック」という大会に出場することになったのです。



カルディコット・ブレイスの 子どもたち

ノエル・ストレットフィールド／作
尾崎愛子／訳
偕成社
(93ス)

父が事故にあい、今までのような暮らしができなくなったジョンストーン一家。一軒家からアパートにうつりましたが、そこでの生活は不満だらけでした。ある日末っ子のティムは、父と一緒に事故に巻き込まれた老婦人に偶然会います。自分たちの近況について話をすると、後日ティムに思いがけない連絡がきたのです。